

2022年7月7日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、中国におけるロックダウン等の影響が残るものの、消費への感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している。

輸出は、増加基調にあるものの、中国のロックダウン等の影響が残存している。設備投資は、増加している。個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直しが明確化している。公共投資は、高水準で推移している。住宅投資は、弱い動きとなっている。こうした中で、生産は、基調としては緩やかな増加を続けているものの、中国のロックダウン等の影響が残存している。雇用・所得環境をみると、一部に改善の動きもみられるが、全体としてはなお弱めとなっている。この間、企業の業況感、製造業は悪化している一方、非製造業は改善している。

先行きについては、ウクライナ情勢、新型コロナウイルス感染症や供給制約、原材料価格や消費者物価の上昇等が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、高水準で推移している。

輸出は、増加基調にあるものの、中国のロックダウン等の影響が残存している。

設備投資は、増加している。

個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直しが明確化している。

百貨店販売額は、持ち直しが明確化している。スーパー等販売額、外食売上高は、持ち直している。旅行取扱額は、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、供給制約の影響から横ばい圏内で推移している。家電販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。

住宅投資は、弱い動きとなっている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、基調としては緩やかな増加を続けているものの、中国のロックダウン等の影響が残存している。

内訳をみると、輸送機械関連を中心に中国のロックダウン等の影響が残存している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、一部に改善の動きもみられるが、全体としてはなお弱めとなっている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、1%台後半のプラスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、既往の企業向けの資金繰り支援融資から高水準で推移しており、前年比0%台後半のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上